

# Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

## 緑に覆われた「丘」は沿線と街のシンボル

### ⑨東急病院 (東京都目黒区)



改札を出るとすぐに病院エントランス。徒歩0分の至便さ。

大岡山に安らぎの丘をつくりたい——。そんなコンセプトで2007年にリニューアルを果たした東急病院。東急電鉄が創立30周年記念事業として1953年に設立した企業立病院だ。

開院当時は東急グループの社員や家族のための病院だった。その後、日本が高度成長の道をひた走る中、沿線の開発も急ピッチで進んでいく。住民や乗客の健康増進や疾病予防を図りたい。そんな思いから東急病院は地域の病院へと軸足を移していく。大岡山の町内会の一員でもあり、各種行事にも参加。沿線を代表する医療機関として老

若男女に親しまれている。

大岡山駅は東急目黒・大井町線が乗り入れるターミナル。同社の東横線や多摩川線、池上線、田園都市線へのアクセスも容易な交通の要に当たる。新病院は国内発の「駅上病院」。その姿自体が「丘」のようにも感じられる。

駅上という条件で最も注意を要したのは振動と電磁波の危機への影響。どうクリアしたのか。管理部の山成敏彰課長が説明してくれた。

「線路の下にバネがあって振動を吸収しています。患者からのクレームは一切ありません。MRIの部屋



5階の屋上庭園。東工大に自生している植物も。地域密着の好例

個室からプライベートガーデン風の庭が見える。基本的には観賞用



2 病棟の窓からも電車が見られる。鉄道マニアの患者いわく「冬の朝は格別」(提供・東急電鉄)



スタッフルームにも大きな窓。手術室の前室にも窓がある開放的な病院



特別個室。壁の仕様やカーテン、トイレの扉、冷蔵庫など随所にこだわりがある



特別病室のベッド脇。吸引時に瓶を置く棚とメディカルコンソール一式を隠せる調度がしつらえてある

は6面すべてをケイ素合板で囲いました。撮影上もまったく影響は出ていません」

病院の外観を特徴付けるのは豊かな緑。南側と西側の壁にはワイヤーがめぐらされ、ハゴロモジヤスミンやテイカカズラなど7品種、4200本のツタが巻き付いている。緑化計画は当面10年のスパン。3年弱を経て茂ってきたところだ。「これも地域との協力の一環。無機質な単なる建物ではなく、緑化をしてはどうかという意見が話し合いの中から出てきた」(山成氏)

デザイナー・アキテクトとして新病棟建設を指揮し

たのは、地元・東京工業大学の安田幸一教授。緑化のプランは日建設計の森山明氏が手掛けた。壁面の緑は院内の熱環境を調節、患者への安らぎも与えてくれる。さらに病院北面のプライベートガーデンは近隣の東工大や目黒線上の公園とリンクし緑のゾーンを形成する。

管理部の椿尚也統括部長は病院の使命を「地域との連携」と語る。約30カ所の診療所に定期的に職員を派遣。ニーズを細かく押さえている。

「器も大事ですが、患者のQOLを上げるのは結局は人。あせらずやっています」(椿氏)

# 緑化による「癒しの環境」づくり

## ⑩千葉県済生会習志野病院 (千葉県習志野市)



柔らかい光に包まれているロビー

日本大学生産工学部津田沼キャンパス、東邦大学薬学部、東邦大学附属中学・高校が立ち並ぶ文教エリアに千葉県済生会習志野病院がある。前身は1941年に船橋市内に開設された船橋診療所。済生会創立90周年に当たる2001年に、国立習志野病院の経営を引き継ぎ、老朽化した施設を全面建て替えて現在地に開院した。

建て替えの際に目指したのは「癒しの環境」。緑化によって、患者が落ち着いて治療に専念できる環境をつくり、生理・心理的な治癒力の向上を図った。また、断熱効果や日射の照り返し防止といった物理的な効果も狙っている。

目玉は、最上階である8階の屋上庭園と3・4階の屋上緑化。屋上庭園はスカイレストランやラウン

ジ、講堂を取り囲むようにつくられ、室内から緑越しに外の景色を眺められる。周囲を囲っている約2mのガラス製フェンスによる防風効果で、中木の植樹ができるようになっている。中央には円形ベンチを設置。庭園を周回できるように通路を設け、車いすでも通れるようにバリアフリーにしてある。

天気良ければ富士山や幕張メッセの高層ビル群、東京スカイツリーも見える。特に夏は、周辺の市が催す花火大会の打ち上げ花火を堪能でき、また秋には美しい夕日を見ることもできる。

3・4階の屋上緑化では、病室の窓の下端を低く設定してあるので、ベッドに寝たままの状態でも外の緑が望めるようになっている。3階は産科・婦人科病棟、4階には小児病室があり、「一年中絶



四季折々の草花と眺望が楽しめる屋上庭園



屋上庭園に臨み、いすも緑に統一されているスカイレストラン



約900種類の医療関係のパムフレットを備える「患者図書館」



患者の利便性を考えた外来受付と待合室



ゆったりとしたスペースの4床室の特別室



自然採光豊かな最上級の特別室

えることのない緑が妊婦や子供の患者さんの心を癒している」(藤山和夫・事務次長)。各階にはダイナーもあり、患者ばかりでなく、見舞いに訪れた家族にとっても憩いの空間となっている。

緑化以外でも、患者の快適環境と利便性を重視したさまざま工夫が凝らされている。1階ロビーは吹き抜けと大きなガラス窓により開放的で明るい。内科系・外科系の受付と診察室は1カ所に集約さ

れ、多科診療の場合でも受付番号は一つの通し番号になっている。2階へ上がるエスカレーターは、高齢者や子供に配慮してゆっくりした速度にしている。各病室の入り口には、患者のプライバシーを重視して名前を表示していない。特別室も7ランク用意しており、4床室でも1人当たりのスペースをゆったり取り、窓も一人ずつに付いている。同病院は済生会の病院の中でも新しいタイプの病院だ。